平成３０年度第１回木曽岬町総合教育会議（議事録）

日　　時　平成３０年６月２５日　午前９時３０分開会

場　　所　木曽岬町役場４階　防災多目的室

出 席 者

（構成員）　町　　長　　加藤　　隆

教育委員会

教　育　長　　山北　　哲

委　　員　　白木　　修

委　　員　　藤井　由弘

委　　員　　宮﨑　佐和

（構成員以外の出席者）

中 学 校 長　　白木　俊行

小 学 校 長　　池田　祐一

幼 稚 園 長　　柴田　明美

総務政策課長　　伊藤　啓二

教育課長副参事　　伊藤　正典

教　育　課　　山下　昌司

総務政策課　　中里真由美

欠 席 者　　委　　員　　大橋　洋平

協議事項

【テーマ】　地域との協働による一歩踏み込んだ「郷土教育」の可能性を探る

〈協議１〉　園・学校における郷土教育の意義についてどう思うか。

〈協議２〉　“木曽岬町ならでは”の郷土教育を実現していくためには、どのような取組を進めていくことが大切か。

午前９時３０分開会

【課長】　皆さん、おはようございます。

本日は、委員の皆さん、そして関係者の皆さん、大変お忙しい中、３０年度の木曽岬町総合教育会議にご出席をいただきましてありがとうございます。

本日の会議でございますが、大橋委員さんが欠席でございますが、その他の方につきましては、皆様おそろいでございますので、ただいまから会議を開催させていただきたいと思います。事項書に従い進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、初めに町長よりご挨拶をお願いします。

【町長】　　皆さんおはようございます。

きのうに続いて今日も大変暑い日になってまいりましたが、夕べはもっと熱い思いをされた一夜ではなかったかなと思っているところでございます。ワールドカップでの日本チームの活躍を大いに期待させていただいているところでございます。

一方では、先週、大阪を中心に大変な大きな地震が発生しまして、多くの犠牲者が出ました。中でも、小学校へ通う途中のお子さんが犠牲になれたということで、非常に私もショックでした。大切なお子さんを預かる学校教育の施設によって犠牲になられたということで、ほんとうに痛ましいと同時に無念な思いがいたしております。私どもも早速全庁に公共施設や通学路を中心として安全安心のチェックを徹底して行うよう指示をさせていただいたところでございます。また、教育委員会はじめ幼稚園・保育園や小中学校の現場におきましても、そのような安全確認を再度お願いさせていただきたいと思っております。

さて、平成３０年度の総合教育会議ということでございますが、教育委員会の皆さん方には、それぞれ公務、大変忙しい中、早朝からご出席をいただきまして本当にありがとうございます。また、平素は、教育現場や、教育委員会のほうで、それぞれのお立場において木曽岬町の教育行政、教育振興に各段のご尽力を賜っておりますことにも、あわせて御礼を申し上げたいと思います。

今日の総合教育会議に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げるところでございますが、ご案内のように、木曽岬町は、現在、第５次総合計画に掲げる施策を推進しているところでございますが、教育分野につきましては、町民憲章に掲げております、次世代を担う人づくりということで、そのような観点からも、保護者や地域住民の皆さん方との連携と協働によって､子供たちの育ちを支える地域社会の形成を目指しているところでございます。以前の総合教育会議の中でも、この点についての重要性、いかに大切であるかということは、お互いが確認をし、共有を図らせていただいたと思っております。

当町においては、将来この町を担っていただく大切なお子さんたちに、少しでも木曽岬町に関心を持ち、魅力や愛着をもっていただけるようにということで、さまざまな取り組みをいただいているところでございますし、町のイベントや行事に率先して子供さんたち

に参加いただけるような企画をいたしているところでございます。

ご案内のように、特に、木曽岬町のわいわい市場では、木曽岬町のジュニアＰＲ大使という銘を打って、中学生の方々が主体的に木曽岬の魅力などを調査し、発信をするという企画もしております。また、オータムフェスタ、秋の祭りで、カボチャをテーマにしたイベントでございますが、これも、観光協会や地域の皆さん方が学校のほうとも連携しながら取り組みをいただいているところでございます。そのような角度からも、子供と地域をつなげる取り組みを教育委員会さんが積極的に展開いただいているところでございますが、地域とともにある学校づくりや、園、学校が推進いただいております郷土教育の影響というものは非常に大きな意味のあるものだと思っております。

そういった観点から、本日の総合教育会議におきましては、今後の一層の郷土教育への取り組みということを期待いたしまして、これをテーマとして教育委員会の皆さん方、現場の先生方とともに、忌憚のない意見交換をさせていただいて、実り多い会議にさせていただけたらと思っておりますので、皆さん方の積極的な意見交換を期待させていただきまして、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【課長】　　ありがとうございました。

続きまして、山北教育長さん、よろしくお願いします。

【教育長】　　おはようございます。

まず初めに、お忙しい中このような機会を設定していただきまして、ありがとうございました。

先ほど、町長さんのご挨拶にもございましたが、今日的な教育課題は非常に多岐にわたっており、そういう教育課題を解決していくためには、学校、幼稚園、あるいは保護者、地域が、みなさん同じ方向で取り組んでいくことがとても大切であるということを共有していただきとても良いことだと思っております。

平成２９年３月に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正されまして、学校運営協議会の設置が努力義務化されました。木曽岬町は、それに先駆けまして、平成２８年４月に学校運営協議会制度を整備し、コミュニティ・スクールを導入したところでございます。そして、２年間の実績として、地域の方と協働的な活動が各段に増えてきたなと感じているところでございます。

特に、本日の協議テーマは、学校、家庭、地域、そして、町行政でともに取り組むことで、より郷土教育の質が高まってくるのだと考えます。そういう意味合いから、今日、町

長さんと意見交換をさせていただく中で、考え方を共有しながら、今後の施策展開につなげていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

【課長】　　ありがとうございました。

それでは、続きまして、総合教育会議の運営方法について説明させていただきます。

この会議でございますが、木曽岬町の総合教育会議要綱について運営するということがうたわれております。また、同要綱第４条に基づき、本日は幼稚園長、小学校長、中学校長にも出席をお願いしておりまして、協議を進行する上で必要な場合におきましてはご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、本日出席いただいております委員の皆様方からも１人ずつご挨拶をいただきたいと思います。

まず、〇〇委員さん、よろしくお願いいたします。

【委員】　　おはようございます。

今日、総合教育会議ということで、毎年、このように開催していただきまして、出席させていただきます。

教育委員会だけで話し合っていると、予算面とかいろんな面で、やはり町行政とお話ししていかなくてはなかなかうまくいかないと思うことがありますので、今日は少し無理な話をお話しさせていただこうと思っておりますので、またよろしくお願いします。今日はありがとうございます。

【課長】　　次に、〇〇委員さん、よろしくお願いします。

【委員】　　おはようございます。

地域との協働ということを考えますと、この地域が成立した歴史ということが重要になってくるのではないかと思います。伊勢湾台風しかり、いろんな災害しかり、そういう過去の歴史を通じて、これからの未来はどう行くのかということを考えて郷土教育に取り組んでいくというところをもう少し詳しくお伺いしたいと思っております。お願いいたします。

【課長】　　続いて、〇〇委員さん、お願いいたします。

【委員】　　おはようございます。今日一日、よろしくお願いいたします。

【課長】　　ありがとうございました。

それでは、ここから協議事項に進めてまいりたいと思います。

まず、本日の協議のテーマでございます、「地域との協働による一歩踏み込んだ郷土教育

の可能性を探る」についてでございますが、町長から最初にお話をいただきまして、この協議事項に沿って、皆さんの意見を伺う形で、この後、進めていただきたいと思いますので、町長さん、よろしくお願いします。

【町長】　　それでは、早速ですが、郷土教育の推進の可能性について、協議１に掲げておりますが、園・学校教育における郷土教育のその意義について、皆さん方のご意見をお伺いしたいと思っております。現在でも、幼稚園・保育園や小学校、中学校では、それぞれの発達段階に応じた郷土教育が行われているところだと思いますが、教育委員会の施策の中でも、これを非常に重点項目として掲げていただいておりまして、郷土教育について、改めてその意義や、また、どんな効果を期待するか等々について、お伺いしたいと思っております。まず、協議に先立って、現在、幼稚園・保育園や、小学校、中学校において、いわゆる郷土教育について、どのように位置づけをし、教育活動にどのようなものがあり、そしてまた、どのような取り組みをされているのか、そのようなことをそれぞれのお立場から簡潔にご紹介をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【課長】　　それでは、先ほど町長が申し上げた内容につきまして、オブザーバーとして出席をしていただいております小学校長さんのほうから、順次、テーマに沿った報告をお願いしたいと思います。

【小学校長】　　よろしくお願いします。

今、配っていただいた資料をもとに説明をしていきたいのですが、若干、追加、訂正がございますので、それに基づいた説明をさせていただきます。

いろんな郷土教育を進めておりますが、福祉関係でいきますと、２年生の２学期に、福祉実践教室の中で、手話教室、４年生の３学期にも、福祉実践教室で点字教室、それから、５年生の３学期に車椅子体験ということが抜けております。大変申しわけございません。あと６年生で、高齢者体験としまして、高齢者の方は目が見えにくいとか、体が動かしにくいというようなことがありますので、そのような体験もさせていただいていると聞いております。

それから、地域の工場についてですが、３年生の２学期には、大起産業さん、それから、５年生は三崎にあります三恵株式会社さん、自動車の部品をつくっている工場に行っていると聞いております。同じように、工場関係でいきますと、４年生の１学期に太陽光発電と、実はこれは明日、行かせていただきます。

主なところは、今、追加させてもらったところですが、今までずっとやってきた中で、

新しいものとしては、例えば、３年生のどてカボチャづくりということで、早速地域の方何人か来ていただいて、今、学校でつくっております。９月には、オータムフェスタの発表ということで、今年は２年目として準備を進めております。

それから、６年生のようこそ先輩につきましては、キャリア教育ということで、２学期に修学旅行で神戸のキッザニアに行きますので、そことつなぎまして、６年生の保護者の方に来ていただいて、仕事についての話を聞かせていただくということになっております。

あと、順番が前後して申し訳ありませんが、２年生の木曽岬音頭・小唄を学ぶ会、この間、２回、来ていただきまして、練習をしていただきました。

いずれも地域の方に来ていただきますので、こういう木曽岬小唄とか、どてカボチャづくりとか、地域の方といろんなところで交流できるというのは、ふだんからも子供とのつながりができるので、すごく子供たちにとっては木曽岬町がぐっと親しみやすい存在になっていくのかなと考えております。やっぱり地域の方に来ていただけるということについては、すごく子供たちがふだん会っても挨拶もできますので、とてもいいことだと思っております。

それから、１年生と２年生の１学期に見られる昔遊びですが、これは、地域の方たちで昔遊びをしてくださる団体があり、その方たちに休み時間に体育館に来ていただいて、子供と一緒に遊んでいただくということも新しくできていると聞いております。

以上です。

【中学校長】　　中学校です。

中学校は、地域の人々との触れ合いというところが郷土教育のメインになってくるかと思っております。あと、地域の産業や文化、これを継承していく、そういうところも郷土教育であるというように考えています。

具体的には、地域の方が学校のほうに来ていただいて、子供たちがいろんなことを教えていただく。あるいは、逆に、子供たちが地域のほうに出ていかせてもらって、さまざまな体験をさせていただく、そういった行事、あるいは取り組みがほとんどです。

１年生でいきますと、コミュニケーション講座、そして、体育で柔道の指導、あと、ようこそ先輩はＯＢの方から職業について学びます。

２年生については、５月に３日間、町内を中心とした事業所で職場体験学習を行います。また、浴衣の着つけにプラスして、浴衣を着たところに木曽岬小唄の方に来ていただきまして、小唄の練習をさせていただきました。また、保健センターと連携しまして、赤ちゃ

んふれあいセミナーを行います。そして、教科でいくと、技術科で、地元の農業体験ということで、米づくりやトマトづくりの農家の方のところにお邪魔させていただいて、農業での苦労話であるとか、どういうところに工夫されているのかというようなところをお聞きしていきます。

３年生では、これは家庭科の中で、木曽岬幼稚園・保育園さんに協力していただきまして、保育実習に行かせていただいております。

また、全学年としての取り組みということで、６月に桜堤防の除草作業を行いました。町の夏祭りであるとか、体育祭、文化祭、オータムフェスタ、輪中駅伝、そのような行事に中学生が参加させていただいたり、美術・ボランティア部がお手伝いとして参加させていただいたりしております。

また、全学年を通して、通年で、木曽岬ジュニアＰＲ大使の活動として、わいわい市場や、いろんな町の行事に参加させていただいております。そして、部活動の外部指導者として、地域の方に来ていただいて、部活動について技術指導を行っていただいております。

以上です。

【園長】

幼稚園・保育園ですが、１月に新たに図書館ができたということで、今年度は年齢別で全員で図書館を利用させていただいています。本を借りることで、家庭でも本を読んでいただける、また、返すときには保護者と一緒に返していただいて、また、次の本を借りていただくという形でやっていますが、借りていなかった方も半数ぐらいいたのですが、意外に、これをやることでいろんな保護者の方でも本を借りるという、利用するということを経験できたという言葉も聞かれます。

木曽岬小唄は、毎年、年２回、１学期と２学期に行いますが、小唄の伝承ということで、子供たちも四、五歳になってくると上手に踊れるようになってきますが、今年度は保護者へもお便りや黒板とかで参加を呼びかけさせていただきました。木曽岬の踊りだから覚えるといいという保護者からの声も聞かれました。なかなか１回では覚えられないけれども、木曽岬の踊りということで、機会を設けることで保護者も覚える意味があるなという言葉も聞かれました。やはり幼稚園・保育園は、子供たちにもいろんな地域の方との触れ合いというのも大切ですけど、保護者を交えて巻き込んでいくということが大切かなというように考えています。

また、町の催しなどには極力参加するようにお便りやポスター等で知らせていますが、

やはり知らせているのといないのでは、随分保護者や子供たちの参加も違うようなので、できる限り呼びかけていこうと園では努めています。

あと、野菜づくりなどを園庭でやっていますが、おじいちゃん、おばあちゃんや近所の方にもいろいろお世話をしていただいて、土に触れさせるとか、野菜づくりや収穫をし、それをどのように食べるかなど、いろんな地域の方の知恵をかりてやっています。

以上です。

【町長】　　ありがとうございます。

小学校、中学校、幼稚園、それぞれ、現在の取り組み状況などについてお聞かせをいただいたところですが、この取り組み状況を踏まえて、教育長、そして各教育委員さん方のほうからもご意見をいただければと思いますので、ご発言をお願いします。

【委員】　　小学校をはじめ、幼稚園、中学校、皆さんが地域の方と一緒にやっていただくということで、これも地域の方の協力があってこそできることだと思いますので、ほんとうに頑張ってやっていただいていると思っています。

そこで、これが郷土教育として根づくようにするにはどうしたらいいか、これがほんとうに子供たちに将来的において、郷土、木曽岬町に愛着を感じるとか、いろんなことでこれが役立つというか、そういうのも深めていかなければいけないと思っています。今日、幼稚園の園長先生が言われましたように、保護者の方や皆さん忙しい中、いろいろ参加していただくというのもほんとうに難しいなか、皆さん、参加していただいて、よくやっていただいているなとうれしく思っていますし、これが子供の郷土に対する愛着になるとすれば、ほんとうにうれしいなと思っています。

以上です。

【課長】　　ありがとうございます。

【委員】　　私は、非常にバラエティに富んで、いろんなことを実行していただいているのはほんとうにありがたいと思います。

中でも、幼稚園の潮干狩りですね。これは、木曽川という、この木曽岬町ができたもとの原形からもらえる恵みを、小さいときに自分の足で川まで行って恵みをとるという体験というのはとってもすばらしいと思います。ですから、これはずっと続けていただきたいと思います。

その次が、小学校の伊勢湾台風の授業と書いていただいてあります。これは、逆に川がもたらした災害ということで非常にマイナスの面もあるのですが、この伊勢湾台風の授業、

それ以前の木曽岬町の地形とか歴史を授業で教えていただいているのかどうか、お伺いしたいと思います。

また、先日、河川防災ステーションができました。なぜできたか。それから、スーパー堤防もつくっていただいております。なぜスーパー堤防ができたか。それが伊勢湾台風とどう関係があるのか。それから、宝暦の治水も木曽岬町も非常に関係していて、この地域で行われて、そのために川を閉め切ったり土地を提供したりといって、先人が非常に努力をして木曽岬町を守ってきた。そのおかげで今、当たり前に暮らせる町があるということを、伊勢湾台風の歴史も含めて教えていただければいいなと思っています。教えていただいているとは思いますが、その点の確認を少しさせていただきたいと思っております。

それから、もう一つ、最後ですが、中学校のＯＢから職業を学ぶという、地元のトマト農家さんとか、お菓子をつくっておられる方、その方たちは、中学校の学習でもありますが、子供さんが自分のところに来て聞いていただいたということで、ものすごく大人のほうのモチベーションが上がるというか、自分の仕事が評価されているというように考えておられます。ですから、これは地域発展ということからいくと、大人側も非常にいいことではないかなと。その結果を取材された方へこういう記事にしましたということをフィードバックしていただいていれば、もっとありがたいかなと思って、その点もお伺いしたいと思っております。

【町長】　ありがとうございます。では、〇〇委員、お願いします。

【委員】　地域の方にいつも協力していただいてもらって、すごく助かっております。

私も、伊勢湾台風の授業は去年初めて行ったということで、大変よかったなと思っております。

また、私は木曽岬に住んでいますが、主人の親とかも農家でなく、そういうのは携わっていないので、ハウス、トマトの見学や、どてカボチャ、米づくりなど小学校のときに体験できて、いいなと思っております。

以上です。

【町長】　ありがとうございます。

教育長、いかがですか。

【教育長】　協議テーマの協議の１にあります郷土教育の意義ということをちょっと考えてみると、郷土教育ということは何の狙いでするのかといいますと、子供たちが郷土、木曽岬をまずは知るというところから始まり、そして、いろんなことを知っていくことで

郷土について自分が自信を持って語れるとか、あるいは、そういうことをして語っていきながら、ああ、木曽岬にもこんなよさがあるんだなと木曽岬のよさがわかったり、あるいは、木曽岬にはこんな課題があるんだなという木曽岬の課題が見えてきたり、そういうこと、いろんなことを知る中から子供たちがわかってくると思うんですね。そういうことを勉強していきながら、子供たちが将来、郷土木曽岬について担うことができるような力が身についていけば、これはまさに郷土教育の意義なのだろうと思います。

多くの委員さんがおっしゃいましたけれども、郷土について知ったり学んだりするということは、それぞれ、幼稚園、小学校や中学校の取り組みを通してさまざまな観点から、総合的にいろいろかかわりながら、子供たちは木曽岬とはこんなものなのかなという概念が形成されていくと思うのですね。

小学校では、木曽岬で独自につくった『わたしたちのまち木曽岬』という本を使いながら勉強しておりますけれども、それプラス、そこにいろんなものが入りながら、子供たちに教育をしているわけです。郷土について知るというのは、〇〇委員さんがおっしゃいましたけれども、まずはまちの特性をしっかり子供たちに知らせていくという作業が学校側でも必要であろうし、行政でも必要であろうし、あるいは、地域の皆さんの中でも子供たちに語っていただくことが必要だと思います。

例えば、先ほど話題になった輪中の成り立ちって、この木曽岬がそもそもこんなふうにして輪中のまちとして形成されてきた歴史ってどんなのかなということぐらいは、やっぱり木曽岬に住んでいる方は話ができて、子供たちとこんなふうにして、うろこのようにしてどんどんどんどん増えていって今のまちがある。だから、洪水が来たときにすぐに水が浸ってどうにもならん、そのために、今、しっかりした堤防ができているのだなということが自然な会話の中でできるということでいくと、子供たちにそういう歴史を少し教えていきながら、やっぱり町としても、そういうようなものについては、どこかの形で皆さんに輪中の歴史などをお知らせするようなことが必要かなと思います。

そんな意味でいくと、子供たちには、少なくとも海抜ゼロメーター以下の土地が多くて、過去には伊勢湾台風のような非常に大きな災害があって、そういう災害から守るためにスーパー堤防が築かれたり、大きな災害から身を守るために避難タワーができたり、そんなことがあるのだということ、これもトータル的に子供たちに教えていく機会が必要だと思います。

これは、学校の先生にお願いするということではなくて、学校、中学校の総合の時間の

中で、３年間、１年、２年、３年と順番に進んでいく中で、例えば、町の将来像、暮らしを守り豊かな心と活力を育むまちづくりというのが総合教育の大きなテーマになって、そこには５本の柱があるのですが、今、防災の話でいくと、安全安心な生活の場づくりという切り口があるのですが、そんな中で、例えば、危機管理課の課長さんに行っていただいて、大きな防災ということについての話をする機会を仮に１時間いただくとか、あるいは、福祉行政について１時間いただくとか、あるいは、上水道、下水道についてもしゃべらせていただくとか、あるいは、暮らしを支える生活の基盤についてもしゃべらせていただくとかという、そういうことを３年間かかって、１年、２年、３年すると、トータル的に３回ぐらい聞くことで木曽岬が進めているようないろんなことが、課題が中学校の子供たちに根づくというような仕掛けを、僕は行政の課長さんが学校で話をさせていただくような機会を持つこともまず大事かなと。

これは、○○委員が言われたように、トータル的にやっているかというと、部分的にはやっているけれども、それがトータル的な取り組みとしてはやれていないなと思います。だから、この辺のところは大事かなということを考えております。

そんなようなことをやっていく中で、行政、そして、学校がともに取り組んでいく中で、子供たちに郷土というトータル的なものを知らせていく、学ぶ機会をつくっていく、また図書館もできましたので、さらにもっと調べたければ図書館に行けばこういう本があるよという紹介にもつなげていただくこともできるだろうし、こんなことが今は大事かなと。

１個目のテーマの意義ということでいくと、要は、トータル的に郷土について子供たちが知ったり学ぶ、そういうことで郷土について子供たちが語る力を持つ、さらにもっともっといくと、語るだけではなくて、じゃ、郷土にどうかかわっていくことで自分たちの郷土の課題の解決とか、もっとよくしていくことにつながっていくのかなということへ発展させていくというのは次の協議テーマになると思いますけれども、その前段としては、今のようなことは、大事かなと考えます。

○○委員が質問されたトータル的にということでは、まだまだやや弱いかなという気がしております。

【町長】　　ありがとうございます。

小学校、中学校、そして幼稚園からの取り組みの状況の説明を受けて各委員さん方からご意見をいただきましたが、その中で、○○委員さんからのご発言の中にございましたので、それぞれ、どのような取り組み、教育をしていただいているとか、ご説明いただけま

すか。

【小学校長】　　小学校です。教育長も言われましたが、社会科の副読本、木曽岬町の副読本がありますので、そこで３年生が主に校区のことについて勉強をしていきます。４年生は、伊勢湾台風のことを勉強していくということで、先ほど言われた輪中の成立とか、そんなことに関しましては３年生から学習をしております。３年生を見ていただくと、ずっと社会科、副読本というのは３つ並んでいると思いますが、１年間通して、これは勉強していきますので、改訂が近々あると思うんですけれども、そういう中で、もっと木曽岬について、新しく教師が３年生を持つと、やっぱりそこから新しく来た者は副読本から入っていくところが多いので、そこの改訂の中で、今の木曽岬町の特色的なことを副読本の中で充実させていくと、新しく転勤してきた者も進めやすいかなと思っています。

木曽岬小唄とか、それから、工場のことも出ていますので、どれだけ入るかわかりませんけど、そんなことをもしも改訂で入れてもらえると、子供たちもとっつきやすいのかなと思っております。

以上です。

【町長】　　中学校さん、いかがですか。

【中学校長】　　中学校です。まず、地元の農家の方とか、事業所の方とかとも連携した取り組みというのが２年生の職場体験学習と農業体験と、全学年の木曽岬ジュニアＰＲ大使の活動かと思われます。

フィードバックということですけれども、職場体験学習の中では、お世話になった事業所や農家の方に、子供たちは、終わってから、学んだこととか、こういうふうに思いましたというようなお礼の手紙を書きます。そして、それぞれグループごとに体験してきたことをパワーポイントにまとめて発表会を行います。そのときに、お世話になった事業者の方にもぜひ来てくださいということで招待をさせていただいて、今年も、もう終わりましたが、幾つかの事業所の方が見に来ていただけました。

あと、木曽岬ジュニアＰＲ大使では、町の方に出会い、インタビューをし、学んだ、そのことをもとに新聞等をつくりまして､わいわい市場の中でも発表させてもらいましたし、展示もさせてもらいました。あと、インタビューした当の本人の方には、子供たちがつくった独自の名刺を、終わってからお渡しをするというような形でフィードバックをさせていただいております。

【町長】　　ありがとうございます。

幼稚園のほう、何かありましたら。

【園長】　潮干狩りは毎年続けていこうと思っております。潮干狩りも、地域の方から、今年はいつやるのと電話がかかってきたり、お水を用意していただいたりとか、職員だけでは安全面のことを考えると怖いので、保護者の方も今年度は２３名の方についていっていただいて、子供たちもすごくいい経験ができているので、毎年行っていきたいと思っております。

【町長】　ありがとうございます。

【教育長】　先ほど中学校の校長先生からご説明があった木曽岬ジュニアＰＲ大使の取り組みですけれども、これについては、中学生の子供たちが自主的に手を挙げて、何人かの子供たちが、去年は７名か６名、今年は８名おりますけれども、そういう子たちだけの単なる取り組みではなくて、そういう子たちが取り組んだことについては、学校の全体の場でも皆さんに知らせる取り組みを学校としては広く取り組みをしていただくということで、それのコーナーのようなものを常に掲示板として張ったり、あるいは、全校での発表も機会をとってやっていただいているということで、これで個人が取り組んだことが広がるという仕掛けをやっていただいておりますので、これは非常にいい取り組みになっているのかなと考えております。

【町長】　ありがとうございます。

それぞれ委員さん方のご意見をいただきましたけど、〇〇委員さんからのご意見にもございました自分たちのまちを知るという大切さ、特に、どんなまちの成り立ちがあったのかという歴史的な観点からもそうですし、環境的な面からも、木曽川とともに発展してきた木曽岬でございますので、そういった角度からも、皆さん方にそういった機会をつくっていただいて、体験なり、知識を育んでいただけることが非常に大事かなと思います。もう一つは、防災上の観点からも、私自身が先般の河川防災ステーションや防災センターを完成した一つのきっかけとして、できるだけ多くの人たちに防災に対しての知識、意識を高めていただくこともちろんですが、一番大事なことは、私は正確な情報を皆さんにまず共有していただくこと、その中の一番大きなことは木曽岬町には、防災上のどんなリスクがあり、そして、災害やら、いわゆる危険なことはどんなことが考えられるのだというようなことを日ごろから知っていただきたい。その上で、万が一のときに身を守る的確な判断なり行動をしていただく、そのための情報提供なり、あるいは訓練なり、そういったことが非常に大事だなと常々思っております。そういった意味合いにおいても、木曽岬町

を知っていただくことの大切さをそれぞれのお立場、それぞれの現場で、機会を捉えて子供たちに育んでいただけると非常にいいのかなと思います。そしてまた、木曽岬町のいろんな活力、魅力といいますか、そういったことを子供さんたちにしっかりと知っていただいて、特に、大人の人たちがそれぞれの分野で頑張っていただいておるものですから、そういったことを見たり体験したりして、子供たちに木曽岬のよさを発見していただけるといいかなと常々思っております。それぞれご意見をいただいたところですが、教育委員会事務局のほうから、三重県の現在のこういったことに対しての政策方針や、また、全国の実例がございましたらご紹介をいただけるといいかなと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】　　お願いします。

三重県の教育ビジョンというのがございます。この中にも、三重県としても郷土教育を進めていきたいというような県としてのビジョンがあります。それについては、各地域の特色ある取り組みを実践していきましょうというと。

ちなみに、全国的な郷土教育の取り組みを調べてみたところ、やはり各地域でいろんな取り組みをされているのがうかがえます。

例えば、北海道の札幌の小学校では、問題を見つけ、自分を見詰め、地域に働きかけるドリームタイムというようなテーマで、いわゆる郷土教育を推進している。島根県のある中学校では、地域社会への発信型体験活動というようなテーマで、社会を知る、社会にかかわる、社会に参画する、住みたいまちプロジェクトというテーマを掲げまして、郷土教育に取り組んでいます。

いずれにしましても、これは先進的な取り組みで、子供たちの主体的な郷土教育へのかかわり、そして、参画する、あるいは、探求的に取り組んでいくというような、いわゆる受け身的な郷土教育ではなくて、さらに自分たちはどんなことが地域でできるのだというような、いわゆる地域貢献ですよね。そこに踏み込んだ形での郷土教育が非常に盛んに行われているというところで、子供の育ちを地域とともに育んでいくという体制が整っているということが言えると。

それについては、木曽岬町もＣＳ、コミュニティ・スクールを推進しておりますので、その素地はできているかと思いますので、さらなるそういった取り組みを進めていくのも非常に効果があるかなというふうに考えます。

以上です。

【町長】　　ありがとうございます。

それぞれ、今、ご報告やらご意見をいろいろと出していただいたところでございますが、どなたからでも結構です、〇〇委員、いかがでしょう。

【委員】　　ありがとうございます。

私は、確かに、今、教育長が言われた海抜ゼロメートル地域という、これはマイナスの面もあるかもしれませんが、逆にプラスの面が非常に多い地域じゃないかなと思います。それは、歴史を見てみると、大概、文化文明は川の流域に発展する、それは、土地が利用しやすい、この土地でいえば、平べったい土地にハウスもつくりやすいし、日もよく当たるし、水も手に入れられる、だから、米とかハウスで野菜をつくるということが発展したんだという、そういうよい面を教えて、それを維持するためには何が必要か、そのためには防災のステーション、こういうのがあるよというのをメガソーラーに行ったときに帰りに寄っていただいて、こういうものでみんなの安全を守っているのだよというものを見せて、安心して暮らせるというのを進めていければいいのかなと思っております。

中学校の職業のフィードバックも非常に丁寧にやっていただいていて、非常に感心しました。ありがとうございます。

【町長】　　ありがとうございます。

先ほど、ＯＢの方々との中で、逆にフィードバックというか、訪ねてくれた側のほうが非常に自分の職業に対して子供さんたちに関心を持っていただいたということで、これはほんとうにその通りだと思いますし、農家の人たち、それから、昔ありました職人さんたちのマイスター制度、あれでもそうですけど、子供たちが興味を持ってくれる、そしてまた、子供たちに教える、伝えるということは、自分にとっては非常に意欲をかき立てられるというか、非常にやりがいを感じるというようなことで、私はお互いに意識を高めるために非常にいいことだと思っておりますので、ぜひまた積極的にそんな機会をつくっていただけるとありがたいと思わせていただきました。限られた時間の中でございますので、協議１につきましてはこのあたりで閉めさせていただいて、次の協議２に移りたいと思います。

協議２につきましては、この木曽岬ならではの郷土教育を実現していくためには、今後、どのような取り組みを進めていくことが大切であるかと、そういった観点からの意見交換をさせていただきたいと思っております。子供さんたちが生涯にわたって自立の心を育んでいただいて、そして、心のよりどころとなる郷土への理解やら愛着を深めることを大切にしてきたいと考えているところでございますが、そういった意味合いから、先ほど来、

ご意見の中にも出ておりますけれども、この木曽岬町に魅力やら愛着を持って、あるいはまた、誇りを持っていただけるような、そういった取り組みが一つ、大事になってくるのではないかと思います。今後の取り組みについて、また皆さん方からご意見を賜りたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

【委員】　　このごろ、いろんな人にお話を聞くと、木曽岬で育ったお母さん方が木曽岬で子供を育てたいというような人が結構あるみたいで、もちろん戻ってきている人で見てみると、もともと木曽岬に見えた方が多くて、やっぱり木曽岬に愛着を感じて、子供を木曽岬で育てたいなというところ、土地の状況もいろいろあると思いますが、そういうことがあって、ぜひそれを生かしていただきたいと思っています。

それで、この間も教育委員会の話であったのですが、郷土教育をどういうことで、例えば、人口を定着、人口を減らさないためのという教育だとちょっと良くないという話もありました。しかし、幼稚園、小学校、中学校、同じメンバーでずっと、今はまだ２クラスありますが、これからはほとんど１クラスで、ほんとうにクラスも変更なしで、十何年間一緒のメンバーでやっていくということになると思うのです。

ですから、そういう郷土を愛するというか、大きくなってからも一緒に木曽岬町のことを考えられるようなことを、これは必ず木曽岬町に住んでもらうということではなくて、ほんとうにしっかりできる方は、多分、外へ出ていかれると思うし、出ていかれる方に対しても、木曽岬町を違った面から見ていただくということで、そういうことをしっかりと担っていくには、もちろん郷土のいろんなことも必要なんですが、教育自体も、木曽岬の小学校、中学校、幼稚園もそうですけれども、習ったことが僕たちにほんとうに役に立っているよねというような教育を進めていくという、どんなふうにしたらいいかはよくわからないんですが、教育の立場から、そういう木曽岬で習った、いろんな郷土のあれもあるし、いろんなことも木曽岬で習ったということを、ずっと大人になって木曽岬のことを思い出すというのに学校やいろんなことだと思いますので、ほかの地域と違った大胆な教育というようなことをこれから考えていって、木曽岬にはこういう教育があったなということもよそで話せるような、僕らはこういうことを習ってきたよと特徴ある教育も、ぜひこれからは進めていってほしいと思います。いろいろ文科省の規定もあると思いますが、いつも言っているのは、今日、大胆なことを言うというのはこれですけど、地域に子供を戻すということは、特に、秋にいろんな行事が多いと思います。そういうことのために、授業数ということもあると思いますが、夏休みを１週間から１０日ぐらい短くして、その分

を秋の休みにして、地域のスポーツをしたり、観戦したり、秋のいろんな地域行事に参加するという休みも設けたらどうかと思っています。僕も子供会の役をやらせてもらったことがありますが、今は子供会もない地域が多くて、地域で上の子が下の子の面倒を見るということがないなと思っているのです。これも、郷土愛ということでいくと、要するに、同学年よりも、お兄ちゃん、お姉ちゃんにこういうふうに面倒見てもらった、いろんなことを学ぶということは、僕も２年上のお兄ちゃんによく遊んでもらったという覚えがあって、今の子たちは地域ではあまり少ないのではないかと思っています。

ですから、悪いことも覚えるかもしれませんが、上の子にいろんなことを教えてもらって、地域の連携も、子供だから木曽岬町というよりも、まず、僕であれば西対海地という地域のことをしっかりと担っていけるというような子供になってほしいなと。日本全体的な話ですが、どこへ行っても同じような教育ということがありますよね。

これも、僕が思うに、昔の江戸時代のことになりますが、藩の教育というのは、やはりその地域、地域の藩の教育があって、それぞれが自分たちの郷土をどうやって担う子供たちをつくるかということで、自分たちの教育を、例えば、会津若松だったら日新館とか、いろんなそういう教えを上から、下からでなくて教えていくというそういうことで、郷土を担う子供をつくるには、地域で連携というのであって、それにはある程度の時間が要ると思うので、そういうように大胆に、夏休みを減らしてはというようなことを思っています。

それから、もう一つ、これは難しいことかもしれませんが、郷土を愛するということを教えるために、ある程度の期間、１週間でも、木曽岬を離れて、木曽岬と違うところで共同生活をさせて、木曽岬のいいところを学ぶということも１つの手段かなと思っています。最初に言ったように、いろいろ難しい部分、できない話をするというのはこういうことで、ほんとうに同じような教育では、木曽岬町の魅力というのもなかなか難しいので、いっそのこと、大胆にというように思っています。できる範囲でそういうのを進めていただきたいなというように思っています。よろしくお願いします。

【町長】　　ありがとうございます。

○○委員さんから、それぞれご提案、ご意見を頂戴いたしましたが、これをここで議論させていただくと、時間が限られておりますので、ご提案をいただいたということで、また今後の課題として議論を重ねていっていただきたいと思います。

他にございましたら。

【委員】　　木曽岬は桜がすごくきれいで、お嫁に来たときからきれいだなと思っているのですが、中学生全学年の桜堤防の掃除しかないので、地域を学ぶという点で、どうしてそういう桜並木が木曽岬にできたかということも学ぶことができたらいいなと思っています。

【町長】　　桜のことはケーブルテレビ、ＣＴＹさんの番組で何回か取り上げていただいて、伊勢湾台風との兼ね合いもあります。河川防災ステーションの取材の放映が７月２日にあると思うのですが、今、〇〇委員さんがおっしゃられた桜の歴史、由来についても、木曽岬には、それ以前の歴史的なことや、資料としても、文化財としても非常に少ないものですから、限られた木曽岬の資源とか歴史をしっかりと再確認して、次世代の子供さんたちに語り継いでいきたいなと思っています。

教育委員会さんにもお願いしたりもしているのですが、町としても、いろんな機会を捉えて桜のこと、私自身がお話をさせていただいているのですが、先般のＣＴＹの「まほろば」という番組の中でも、桜をテーマにして、５月いっぱい放映されました。

そんなようなことですが、桜とか、ほかの木曽岬の成り立ち、あるいは、郷土の文化といったことについては、また私自身も知る範囲で資料として残していきたいなと思っておりますし、何よりも、町の歩みといいますか、歴史といいますか、町史、そういったものも平成３０年度、町制施行３０周年ということの節目にもなりますし、そして、来年、ご存じのように、天皇陛下がご退位され、新しい天皇が即位されて新しい元号ということで、新しい時代を迎えようとしておりますので、一つの大きな節目かなと思っておりますので、木曽岬の今までの歩みを、特に平成の時代の歩みをまとめていきたいなと思っておりますが、その中とは別に、それ以前のものについても、町史とか、いろんな資料に残されておりますが、そこにももう少し肉づけができたらなと思っておりますので、〇〇委員がおっしゃるように、桜のことについても子供たちに伝えていきたいなと思っております。また、その節にはいろいろとご意見を賜ってまとめていきたいと、教育長にもお願いをさせていただきたいと思っています。

【教育長】　　協議の２番にかかわって少し自分の思いを伝えさせていただくならば、学校でのカリキュラムの中にどれだけ入れ込むことができるかということを、校長先生のご意見も聞きながら、これから進めていかないといけないと思いますが、郷土教育って先ほど話をしましたけれども、子供たちが郷土を知ったり学んだりすることから始まり、郷土にかかわるということですね、もう少し突っ込んでいけば、参画していくということにな

ると思いますけれども、先ほど、事務局が話をしましたけれども、先進的な取り組みで考えていくと、子供たちが主体的にかかわったり、参画したり、地域に貢献したりというようなことにつながっていけばいいし、つながるような気持ちを醸成していくことというのが郷土教育にとっては大きな意義だと思いますね。そんなことから考えていくと、そこへつなげていくためには、やっぱり学校なり、地域なり、あるいは保護者なり、行政なりが何かの仕掛けをつくる必要があると思うのですよね。

そんなことで、１つか２つ、例を申しますと、例えば、木曽岬輪中の成り立ちについて勉強していって、海抜ゼロメートル以下なのだとか、この土地は大きな災害、伊勢湾台風でこんなにも多くの犠牲者が出たのだ、それからまた復興して、潮水につかってトマトの栽培もこういうふうにしていいかげんにできるのだな。また今後大きな地震が来たときに液状化も起こる可能性もあるぞとかいうようなことを学ぶことから、では、それについてどうかかわっていくのかと考えていくと、防災訓練がありますよねとか、学校だけの防災訓練、今度は夜間の訓練も実施するようなことになります。そのときに、夜間の訓練を実施するかわりに、９月については、町の訓練じゃなく、防災展のような仕掛けも考えていただいております。

町が計画しているそういうようなことについて、学校としては子供たちにどう働きかけてもらうことができるかというと、夜間の訓練もあるので、おうちの人と参加してみて、それについて思うことをまとめてみなさいというのも、仮に宿題として出させてもらうとか、そういう仕掛けをやってもらうことで参加が仕掛けられるとか。あるいは、防災展に出ていって、どういうようなものが展示してあって、それの展示物についてわかったことについてまとめてみましょうとか、そういうようなことというのは、これはやっぱり学校から子供たちに働きかけをすることによってわかる、その辺のまとめたことについて、一回取りまとめて、中学生がまとめたことについて学校の中で掲示をしまして、その掲示物を、例えば、図書館のところへも張りながら、地域の方にももっと確認をしてもらいましょうとか､そういうようなことは学校と連携して取り組む必要があるのだろうと思います。

さらに、もう少し、参画していくとすると、実際に避難にかかわっての訓練をしていくときに、例えば、地域の中での避難困難者がいますけれども、そういうことを、例えば、中学生として、地域の方と協力して、そんなことが、支えることができるのかなということを地域の中での話し合いがあれば、中学生としてもそこへ参加をさせていただくような場面とか、あるいは、避難所の設営の中で、地域として、中学生としてどんなようなかか

わりができるのかなということについて事前に勉強していくとか、あるいは、避難の想定を、図上訓練をする中で、中学生も、一回、ここへ参加をしたらという呼びかけのときに、そこに参加をしていくとか、そういうような防災ということについての取り組みというのはもう少し体系的な取り組みをしていくことが大事なことではないかと思います。

それから、もう一つ、例を言うと、木曽川最下流のまちと、最上流のまちという、木曽岬町と木祖村が何年か前から提携を結びながらいろんな取り組みを進めております。その取り組みについて、こんなふうにして取り組みを進めているということについては、トータル的には中学校の先生も中学校の子供も全然知らないんですよね。だから、そういうようなことについては、子供たちが木祖村へ訪問を、来年、行きますけれども、それまでには、語っていただくような機会がやっぱり必要かなと。

そんな中で、例えば、子供たちは交流を通して互いの町や村を知っていきましょう、例えば、町の産業のことを知らせるのであれば、これはＰＲ大使の取り組みを通してとか、あるいは、職業体験の取り組みを通していきながら、私たちの町にはこういうような産業があります、それから、木祖村には、そんな花産業がありますということについて、互いのまちを紹介し合う中で、お互いのまちをもっと知っていくとか、そういう取り組みをしていこうとすると、これらは知る、学ぶというのは、今やっていますから、これをさらにかかわっていくとか参画していくということについては、どんなふうに進めていくのかというと、例えば、ＰＲ大使の取り組みなんかは非常に先駆的な取り組みを僕はしていると思っています。

これは今、２つ事例を申しましたけれども、ほかにもたくさん町として取り組んでいることというのを子供たちに知らせていきながら、それがどうかかわっていて、どう参画していくのかなということについては、もう少しいろんな勉強をしていきながらカリキュラムの中で何ができるかということだと思います。あと、資料館の中にジオラマがあるんですけれども、あのジオラマについても、若干、古くなっておりますので、部分的な直しをしていきながら、あそこに行ったときに、子供たちが木曽岬町の全景を見ながら知る機会にするためには、少し手直しもお願いしたいなと思っております。

今、私、申しましたカリキュラムの中でこういうような行政の人に来てもらったり、あるいは宿題を出したり、あるいは、それをまとめて発表したりというのは、今のカリキュラムの中で若干余地があるかどうかだけ、両小中の校長先生がみえるので、お尋ねしながらうちで進めたいと思うんですけど、よろしいですか、校長先生。

【町長】　　どうでしょうか、今、教育長からのご意見がありましたけど。

【教育長】　　特に、中学校では新たな取り組みとして入ってくますが、その辺はどうですかね。

【中学校長】　　どのように取り組んでいくかという取り組み方にもよると思うのですが、何か入れるためには、何か出していかないと入っていきませんので、そのあたりはこちらでも精選をするなり、やり方を考えるなりとかしていかないといけないと思います。

【町長】　　今日は、郷土教育のテーマでということで皆さん方に意見交換、議論をしていただきながら、郷土教育の一環という捉え方になると思います。教育長のほうから既にお話が出たところですけど、私は、やはり郷土教育の一環でもありますが、これからの次世代の子供たちにしっかりと育んでいただく必要があるものの１つに、命の大切さ、命を守ることの大切さ、これを私はしっかりと育んでいってもらうことが一番肝要だと。

これは、先ほど来、防災の観点からのご意見もありましたが、先般の大阪での悲しい事故のように行政としての責任もあるでしょう。そして、通学途中とか、ふだんの近所のまちの中、遊びの中で、最近は、ほんとうに大人の、昔では考えられなかったような子供たちへの危険が頻繁に迫っております。ですから、地域の皆さんとともに安全安心の社会というか、地域をつくっていく大人の責任もありますけれども、子供たちに身を守ること、命を守ること、そういったことの大切さをやはり教えて育んでもらうことも非常に大事だと思います。

もう一つは、これも大人の責任ですけれども、地球的な環境をどう守っていくか、そして、その大切さを子供たちにしっかりと育んでもらうことが非常に大事になってくるのではないかなと。災害が昔の災害と違って、風水害、土砂災害も含めて、これほど頻繁に日本列島各地で発生しているのは、私は間違いなく地球環境が変わってきた、地球の温暖化が大きく変えてきた要因だろうというように思っております。

それだけに、この木曽川の流域で育ってきた木曽岬町の成り立ちからいっても、例えば、木曽川をご縁に、山とか森の大切さ、そして、里の大切さ、そして、海の大切さ、この自然の営みというか、地球の営みというか、そこの中で、先ほど〇〇委員さんからお話があったように、文明の発祥は、皆、大きな大河の流域に生まれ、人々もそこに住みついたわけですが、それはやはり人間が生きていくのに一番自然で恵まれた環境にあるからだと思っております。

その意味からも、木曽岬町が今日発展してきたのは、そういった山、森、川、そして里

やら海、大自然の営みが私たちに恵みを与えていただいてまちが発展してきた。けれども、昨今、そういったことで自然災害が昔とは様相が大きく変わってきておりますだけに、そういった地球環境の大切さ、森や山や川、海を守ることの大切さもしっかりと教えていっていただきたいなと思っておるところです。そういった観点から、ご提案なり、今後の取り組みの中に、もし、積極的なご意見があったら、ご発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

先ほど、教育長がおっしゃられたように、それぞれ学校では、体験学習で、山とか、自然の中でいろんな体験をするということ、それから、職業体験、そういったこともあるでしょう。しかし、こういったことの大切さ、命を守る、身を守るための大切さも、やはり子供たちにしっかり育んでもらうのと同時に、一番大きなことは、地球環境をいかに守って後世につないでいくのかということは、今日世代の一番大きな私は課題だと思っておりますが、特に、ご発言もないようですが、いかがでしょうかね。

ほかのことでも結構ですが、時間も限られておりますので、この機会に、また、これからの取り組みなり、また、ご提言なりありましたら、ご発言いただきたいと思います。

それでは、特にご発言もないようでございますので、最後に、教育長、教育委員さんの皆さんから、本日の会議についてご感想やご意見がございましたら、ご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】　　この会議というのは、これで３年か４年になりますが、今まで教育委員会だけで考えていたことを行政の方々、町長さん等とともに教育を考えるという場だと思います。ですから、いろいろ細かい話はもちろん必要だと思いますが、僕は、将来を担う木曽岬の子供をどう育てていくかという大きなビジョンで会議に臨むというように思っていたものですから、細かいいろんな話ももちろん重要だと思いますが、全体的な大きな木曽岬町の、どういうふうに持っていくかというビジョンを考えていくと、もっといい意味があるのかなというふうに思っています。

毎年１回で済んでいますが、この会議は町長さんの意見もいろいろと教育に携わるということ、いろいろな話に行政も入っていただくということでもともと始まったと思うので、郷土愛をつくっていくというのは、やはりある程度大きなビジョンでやっていかないといけないなと思っていますので、また機会がありましたら、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

【町長】　　ありがとうございます。

【委員】　　小学校で教えていただいている伊勢湾台風のことをちょっと知りたいと思って木曽岬の村史を見たら、江戸時代から明治の初めまで、２５０年か３００年の間に、土地が流れたという記録が４０回ぐらい、文面に出てくるのです。そして、それを復興したという記録が３０回ぐらい出てくるのです。たかだか３００年の間に３０回復興して、４０回流れてしまった。そうすると、それにどれだけの苦労があったのかなと。何のために河川防災ステーションができたのか、それは行政でなぜそういうことをやるのかという答えが出てくるのかなと思います。

教育では、そういう歴史を教えていただいて、行政がやってくれているおかげで自分たちが安心なのだと、当たり前の世界が送れるのは、そういう昔の悲惨な歴史から考えて、それを防ぐために行政がやっているから安心なのだよということを教育の場で教えていければいいのかなと、こう思います。

ですから、行政と教育は全く別物じゃなく、お互い裏表というか、一体化して育っていくものだなと、今日、教えていただきました。ありがとうございます。

【町長】　　ありがとうございます。

【委員】　　地域の方とか、先生とかの協力によって、もっとたくさん子供たちが潤ったらいいなと思いました。そして、年配の方とかも元気になれたらいいかなと思います。ありがとうございました。

【町長】　　ありがとうございます。

それぞれご意見いただいておりますが、１つ、今日の会議の中で、私のほうから言わせていただきます。

堤防のことで、スーパー堤防という表現がありましたけど、スーパー堤防ではないので。というのは、これも国が言っておることですけれども、私自身も、当時の町長さんがスーパー堤防をつくってもらえるということを盛んに言ってみえたので、あれがスーパー堤防かなと思って、２０年ほど前、そんなふうに思っておったのですが、実は、私、ここへ入ってから国交省さんといろいろ意見交換させていただく中で、国交省が言っておるスーパー堤防というのは、東京の荒川だったと思いますが、全く違います。まちづくりです。高台の堤防をつくって、そして、そこに住居、住まいもそちらへという発想ですから、全然スケールが違いますので、ここのあたりの輪中でいけば、輪中堤防をさらに堤防にして、そこにそれこそ生活、文化もそちらへということですから、根本的に違いますが、国交省の役人さんたちが東京で実践をしつつあるのか、民主政権のときで終わってしまったかな

ということ、国のほうではキャリアの人たちはそういう自分たちのまちを守るためには、最大限、そこまでいかないといけないだろうと。ここが、３・１１のときに、高台移転ということが盛んに言われましたでしょう。僕は高台移転というのは、まず無理だろうと、僕は当初から言っていました。

だから、私は輪中地帯、高いところがない地域ですから、横移動しても、それは当然時間がかかりますから、先人の人たちの知恵、どなたかおっしゃられたけれども、全国画一的に教育でもすると、それはそれでいい面もあるけれども、やっぱり防災上のことでもそうですが、北海道から沖縄まで、それぞれの地域には特有のリスクもあり、そして、そこから培った、今、○○委員が言われるように、何十回も土地が流れ、そして復興して、木曽岬の中のわずか２００年、３００年の歴史の中でもそういうことがあるようで、どこの地域でも、その繰り返しがあるのです。

だから、そこの地域の人たち、先人の人たちの知恵を今の科学技術と重ねて、地域特有の対策を講じてほしいと僕はずっと言っているのですが。高台移転なんてあり得ないというのは、何やと言ったら、こういうところは垂直移動です。だから、宅地を高くして、そこに石垣を積んで、高台をつくって、さらにそこに水屋を建てて、そして、水屋が避難所でもあり、備蓄をするところでもありということでしょう。だから、それがこの地域の特有の知恵であり、東北へ行けば、当然、そういったものがあるわけですから、私どもとしては、ここの木曽岬成り立ちもしっかりと勉強していく、子供たちに伝えていく必要があるだろうなと思っていますし、スーパー堤防の発想も、そもそも同じことです。

だから、現実に東北のほうでもなかなか高台移転が進まず、盛り土をしておるでしょう。だから、丸紅の人たちにも話をしましたが、農民、漁民の人たちは、その地からは離れないと。伊勢湾台風の時も、実は、国交省のほうは、木曽岬は村ごと移転という検討をしたという記述が残っています。しかし、やはり水が引いたらここに住むべきだと、こんな豊かな土地を離れることはできないでしょう。その地域で育んだ人たちは、絶対その地を愛していますから、離れないと思います。

だから、そこの地域特有の命を守るための整備をしていく、もう一つは、そこの住民の人たちがそういう意識を高めていくことが、僕は大事だと思いますし、子供たちにも、防災上の観点だけじゃなく、命を守るための教えをつないでいっていただきたいと思います。

限られた時間の中でございましたけれども、活発に意見交換をさせていただいたかと思いますが、最後に、教育長のほうから、どうでしょう。

【教育長】　　今日は、ほんとうに貴重な時間、ありがとうございました。

今日の切り口としては、郷土教育の可能性を探るということで、ある程度、焦点を絞った意見交換になりましたけれども、後半、町長さんがおっしゃった命の大切さについても大事なことだと思っております。例えば、小学校では、いじめの取り組みや道徳教育を通して、子供たちに命の大切さを考えさせることもやっておりますし、不審者からの安全を考慮した見守りや阪神のブロック塀の点検などについても留意されていると思います。

地球的な環境、温暖化についても、いろんな教科の中で、地球の環境を考える取り組み、授業はやっておりますし、いろんな環境ということについて、子供たちにどのような切り口で勉強させていくかということは大きな課題だと思っております。また、〇〇委員さんがおっしゃったように、木曽岬ならではの教育を考えるということで、こういう場でお話させていただくのも大事かと思いました。

今日、意見交換をさせてもらったことを教育委員会として具体的な施策にどう生かしていくかということも今後検討していきたいと思います。ほんとうにありがとうございました。

【町長】　　ありがとうございました。

限られた時間でございましたけれども、それぞれ、皆さん方から活発なご意見をいただき、非常に意味のある総合教育会議になったかなと思っております。また、小学校、中学校、幼稚園・保育園、それぞれのお立場からもご意見をいただきまして、ほんとうにありがとうございました。

一通り、予定しておりました総合教育会議の議論を交わさせていただきましたので、お開きとさせていただきたいと思います。

【課長】　　ありがとうございました。

たくさんのご意見をいただきましてありがとうございます。今日いただいた意見につきましては、今後、将来の教育方針並びに行政等のほうの提案もいただきましたものですから、私どもについても反映できる展開をしてまいりたいと思います。

それでは、限られた時間でございましたが、その他事項について、事務局ありますか。

【事務局】　　特にありません。

【課長】　　ありがとうございます。

では、本日の協議会のほう、これで閉めさせていただきたいと思います。〇〇委員さんからも、年に１回はということでございましたが、特段、また協議していく事項がございい

ましたら、また開催を考えたいと思いますので、その際にはご参集をあずかりますよう、よろしくお願いしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

午前１１時３０分閉会